開き、福島県内の取り組 災がれき処理が13年度で一況」について情報を提 (写真)。岩手と宮城の震 み状況をヒアリンクした 部長が「国による除染状

がれき処理第5回会議で決定 の支援を重点に

物のアロケーション最適 ルサで第5回全体会議を 月2日、福島市の福島デ アム、久田真代表)は2 ・がれき処理コンソーシ 化コンソーシアム(略称 震災かれきと産業副産 完了する見込みだが、福 る結果、災害廃棄物量を一三課長が「震災がれき処 改めて浮き彫りになっ 困難な状況にあることが 正しく推計することすら 再生本部の小沢晴司副本 たっ 島県は除染作業に追われ | 境部除染対策課の遠藤浩 会議では、環境省福島 市政策推進部危機管理室 一供。次いで福島県生活環 理と除染の現状」、福島 除染推進解の欧川豊彦主 状と課題」について、そ 遠藤課長が報告した災害 れぞれ現況を報告した。 任は「福島市の除染の現 と県土整備部などとの情 用するにも、生活環境部

り(46%)は放射能の問 し下げている。 体の処理率 (59%) を押 かずの地域もあり、県全 題がネックとなって手付 できている。一方、浜通 が少なく、ほとんど処理 (89%) は発生見込み量 また、がれきを有効利



理第100%) と中通り 震源地から遠い会律(処)られたような縦割り行政 12月末現在)によると、 れず、かつて宮城県でみ一源化可能ながれきの数量 の弊害が指摘され、再資一ることがわかった。全体 も把握できない状況にあ

にした。幹事会社は分が 点形成)へ再爛すること 未利用资源有效活用、 拠

討部会(かれき利活用) 従来の5検討部会を3検 を拡張する方針を決め、 枠組み構築にも検討領域 とともに、未利用資源を 県への支援に重点を置く

有効活用する資源循環の

を、がれき処理について

ムは14年度からの2年間

また、同コンソーシア

進捗が遅延している福島

れき利活用〉が昭島・昭

で昨年6月に作成した技 題やニースを探ったが、 る意向を示し、当面の課 用事例集を今後作成・配 もに、金質が保有する適 術情報集を提供するとと 具体的な要望を引き出す は至らなかった。そこ

ることにした。 れき処理の促進につなげ 付し、福島県におけるが

討論で久田代表が支援す一和コンクリート工業、 とめる。 学・東北大学が幹事をつ は日本製紙・三菱マテリ アル。拠点形成は宮城大 〈未利用資源有効活用〉